

消費者ネットワーク

2005年4月1日

第94号

全国消費者団体連絡会
発行責任者 神田敏子

TEL : 03-5216-6024

FAX : 03-5216-6036



消団連とこのごろ



3月中旬、ブラッセルとロンドンに行ってきた。まだかなり寒いだろうと覚悟していたが、予想は大きく外れて、どちらもすでにやわらかな春が訪れていた。クロッカスや水仙が満開で、ピンクの木蓮も華やかだった。ロンドンでは八重桜も咲いており、キャミソール姿の女性もいるほどだった。緑の芝生が広がる広い公園では、大人同士がかけっこをしたり、小さな子供がお父さんとヘディングの練習をしていたり、犬も主人とのびのび遊んでいたりと、そしてあちこちからは、陽気な声が聞こえてくる。車椅子のお年寄りがその光景を静かに眺めているのも印象的だった。本当にいろいろな年齢の人たちが、一緒に、また思い思いに外で春の日を楽しんでいるのである。ヨーロッパの人たちは太陽が出るとクレージーになるのだそう。しかし太陽のせいだけではないだろう。共有の場を上手に使っており、日ごろからのコミュニティー活動が身についているように感じられた。

ブラッセルでは中央ヨーロッパの伝統であるバロック型（閉鎖型）街区が今でも人々に人気があり、古くなったものは再生し、リフォームして住んでいる。20世紀初頭まで建設が行われてきたこのバロック型というのは、建物が沿道沿いに四方を囲む形で建っており、内部は大きなコモン（共有の場）としてのオープンスペースになっている。ロンドンではタウンハウスが典型的な風景であるが、こちらにもまたコモンスペースを持っている。このタウンハウスの専用庭の木戸を抜けると林があって、散歩したり、野いちごや野草を摘んだり、薪拾いができる場所もあるという。自然とのふれあいや隣人同士の会話、そして子供たちの遊び場ともなっているこのような場所は、それを維持する責任意識の芽生えや、居住者の社会的な関係を促進するといわれている。一時、ル・コルビュジェが提唱した開放街区がもてはやされた時期もあったが、閉鎖型の街区やもっと小ぶりで親密な空間のあるバロック街区が見直されてきたという。

共有の場を上手に使い、自然を楽しむ生活は、こうした住まい方から生まれてくるものなのかも知れない。そんなことを考えながら、ヨーロッパの二つの街を歩いた。

もくじ

消団連とこのごろ	・・・p.1
第3回EU日本消費者対話が開催されました	・・・p.2
食品表示に関する学習会を東京・京都・大阪で開催	・・・p.4
「事例から見た特定商取引法検討会」を開催しました。	・・・p.6
地方自治体の消費者行政を考えるシンポジウム開催	・・・p.7
消費者基本法改正を受け、各県で消費生活条例改正が進む	・・・p.8
学習会「温暖化を防ぐ消費者行動」を開催しました。	・・・p.9
国際標準化機構(ISO)が社会的責任(SR)に関する国際会議を開催	・・・p.10
会員団体の活動紹介	・・・p.11
お知らせ・編集後記	・・・p.12